

公益財団法人 国家基本問題研究所
総合安全保障プロジェクト

中国軍事動向月報

2025年3月



JINF

Japan Institute
for National Fundamentals

目 次

1 全 般	・ ・ ・ 3
2 各軍等	・ ・ ・ 4
3 対台湾動向	・ ・ ・ 13
4 対日動向	・ ・ ・ 17
5 南シナ海動向	・ ・ ・ 24
6 軍事交流	・ ・ ・ 25
参考文献	・ ・ ・ 26

中国軍事動向月報：2025 年 3 月

2025. 4. 11

国家基本問題研究所 研究員 中川真紀

1 全 般

3 月 5～11 日、第 14 期全国人民代表大会第 3 回会議（以下「全人代」、国会に相当）が開催され、国防予算等について審議された他、習近平中央軍事委員会主席が解放軍・武警部隊代表団全体会議（以下「軍代全会」）が出席し講話を実施した。

部隊においては海軍が豪周回遠海訓練を実施する等、訓練が本格的に開始された。特に本年に入り海警部隊の訓練報道が確認され始めたが、3 月は 3 コ海区全て訓練報道が確認された。報道では海警部隊が新装備・新たな手法への対応訓練や即応態勢を強化している状況が紹介されており、今後、新たな手段により日本・台湾への対応を強硬化させる可能性もある。

台湾に対しては、17 日に東部戦区が台湾周辺の海空域で海空兵力をもって戦備警戒パトロールと統合演習を実施した。また、これまで海警の活動はあまり報道されていなかった東沙周辺海域での海警の活動が確認され、金門・馬祖等中国対岸の離島のみならず、東沙海域での海警の活動常態化を目指した活動を開始した可能性もある。

日本に対しては、22～24 日、海警船 4 隻が尖閣接続水域外側 1～4 カイリの位置で航行した。21～24 日に日本漁船 4 隻が尖閣の日本領海内で操業を行ったため、この操業が長期化または漁船及び海保巡視船の隻数が増加する等した場合に、3 月の尖閣巡航担当直属第 1 支隊を増援して海警船 8 隻で対応できるよう、予め尖閣接続水域外側に配備をしていた可能性がある。東海海区直属第 1・2 支隊は東シナ海日中中間線、尖閣諸島、台湾海峡におけるパトロール任務を有しているが、状況に応じて迅速に尖閣周辺に集結できるよう運用されていることを示したと言える。

南シナ海においては、対フィリピン（以下、比）強硬姿勢は継続。特に比が日米等と連携するのを警戒し、ヘグセス米国防長官の比訪問及び日米比 3 か国共同訓練と同日に、南シナ海定期パトロールを実施した。

2 各軍等

(1) 習近平中央軍事委員会主席の部隊視察

3月20日、習近平中央軍委主席は雲南省を視察し、駐昆明部隊の大佐以上の幹部と基礎部隊の先進模範隊員・事務官の代表と接見した。

習主席の部隊視察時には2名いる中央軍事委員会副主席のどちらかが随行するのが通例であるが、今回はいずれの随行も確認されなかった。

(2) 全人代

○ 国防予算

3月9日、国防部報道官は2025年の国防予算について以下のように公表した¹。

- ◇ 2025年全国一般公共预算の国防予算は1兆8100億元（注：1元=20.32円換算で約36兆7874億円）、前年執行額から7.2%増。その内、中央政府国防予算は1兆7800億元（約36兆1928億円）で前年執行額から7.2%増

（全人代終了後に公表された正確な中央政府国防予算は1兆7846億6500万元）

- ◇ 国防予算増の要因

- ② 新領域・新質戦闘力の発展に力を入れ、伝統的な戦闘力を強化し、新たな軍兵種を育成
- ② 偵察・早期警戒・統合打撃・戦場支援・総合後方支援システムの能力構築
- ③ 実戦的訓練の強化、軍学校の自らの発展を推進し、新たなタイプの軍事人材育成システムを強化
- ④ 国防・軍改革を引き続き深化させ、人的資源に関する政策制度を整備し、部隊の訓練・戦備・待遇等の改善

【コメント】

国防予算の伸び率は経済成長率目標（5%前後）及び中央政府予算の伸び率6.9%を上回ったが、7.2%という数字は2023年・2024年の伸び率と同じ。なお、2017～2024年の伸び率はそれぞれ7%、8.1%、7.5%、6.6%、6.8%、7.1%、7.2%、7.2%。

予算増額の要因について、新領域・新質戦闘力の発展を最初に挙げており、この分野の強化を予算面からも裏打ちした。

○ 全人代軍・武警代表全体会議

7日に軍代全会が開催され、習近平中央軍事委員会主席が出席し重要講話を行った。細部の状況については以下の通り。

習主席重要講話と全人代軍代表の発表テーマ		
2025年会議の概要		
習主席の重要講話	代表の発表テーマ	代表の所属等※
① 質の高い発展を実現 ② 軍隊建設第14期5か年計画を成功裏に達成	① 武器装備試験評価アセットの計画調整 ② 計画の実行管理の刷新 ③ 経費使用管理の効率化向上 ④ 軍需産業生産能力の強化 ⑤ 国防陣地建設の推進 ⑥ 新領域資源の有効活用	① 作戦試験基地 ② 国防科技大学 ③ 後勤保障部 ④ 空軍政治委員 ⑤ ロケット軍 ⑥ 空軍
※ 代表の所属等は人名・制服等からの推定		
【参考】 2024年会議の概要		
習主席の重要講話	代表の発表テーマ	代表の所属
① 使命の自覚を強化し、改革刷新を深化 ② 新領域における戦略能力の向上	① 海洋状況把握能力構築 ② ネット空間防御能力向上 ③ AIの活用推進 ④ 宇宙資源の統一計画・管理・使用の強化 ⑤ 新領域の標準汎用化の強化 ⑥ 無人作戦能力構築と運用の刷新	① 海軍 ② 戦略支援部隊 ③ 南部戦区 ④ 戦略支援部隊 ⑤ 軍事科学院 ⑥ 陸軍

全人代軍・武警代表全体会議からみる2025年の重視事項	
重要講話	① 質の高い発展 民間の優れた力と資源を活用し、新質戦闘力の発展を加速させる ② 軍隊建設第14期5か年計画の達成 ○ 5か年計画では少なからずの矛盾・問題に直面 ○ 進捗と質、コストと効果、全体と重点、発展と管理、計画執行と能力形成の関係を調整し、かつ監督・監査・汚職対処を強化する ○ 建軍百年奮闘目標を期限内に達成するために5か年計画を完遂
代表発表	① 武器装備試験評価アセットの計画調整 ② 計画の実行管理の刷新 ③ 経費使用管理の効率化向上 ④ 軍需産業生産能力の強化 ⑤ 国防陣地建設の推進 ⑥ 新領域資源の有効活用 5か年計画の問題点 民間技術の活用 ICBMサロ建設等を重視 新質戦闘力の強化
○ 5か年計画目標達成に至る計画執行が遅滞と認識。あと2年の期限を念頭に執行要領の改善及び問題発生の一因である汚職への対処を継続強化 ○ 新領域分野は継続して重視、この際民間技術・アセットを活用 ○ 米サロと同基数のICBMサロの2027年までの運用開始を目指し、建設を加速	

(3) 海軍

○ 海軍機の墜落事故

3月15日1959に海軍は公式 SNS で戦闘機の墜落について以下のように公表²。

「南部戦区海軍によると、3月15日1330頃、戦区海軍所属の戦闘機が訓練中の事故により、海南省臨高県加来鎮付近の空き地に墜落した。搭乗員はパラシュートで脱出に成功、地上での被害はなかった。南部戦区海軍は事故対応にあたっており、事故原因については更なる調査検証が必要である。」

Xに投稿された事故の画像

墜落する戦闘機



パラシュートと墜落後の爆発



救出されたパイロット



(出典：X「李老師不是你老師」20250315)

【コメント】

墜落した戦闘機は空母艦載機 J-15 である。

中国軍は通常軍用機の墜落事故を公表せず、公表するものは、被害が軽微で内外に与える影響が小さい、軍用機の性能が推察されない、死亡したパイロットを英雄として祭り上げ士気高揚に利用できる等の場合に限られるのが一般的である。

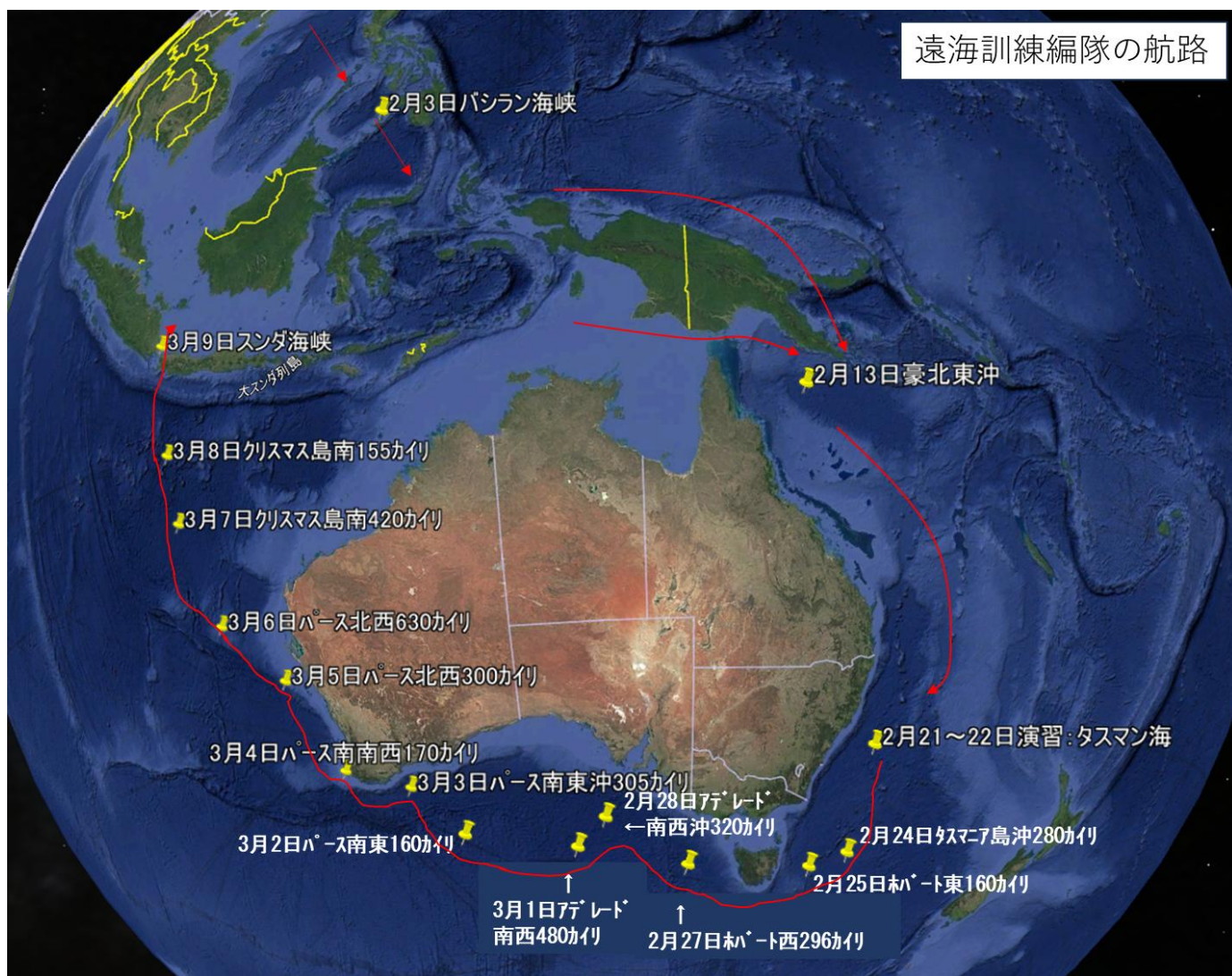
今回は、地上の被害がないと表明しており影響も少ないために公表されたことも考えられるが、公式表明が確認できた15日1959の前に既にXで事故の画像が投稿されており、これが事故当日の迅速な公表に繋がった可能性がある。

近年、中国軍の活動のSNSへの投稿は増加しており、当局は取り締まりを強化する一方、SNSの監視を継続しており既に投稿された事象については、影響の大小を勘案し、当局により投稿を削除をするかまたは迅速に公表するかを判断している可能性がある。

○ 南部戦区海軍の遠海訓練（2月からの続報）

2月3日にバシラン海峡を通過して遠海訓練を実施していた南海戦区海軍のレンハイ級駆逐艦「遵義」、ジャンカイ級フリゲート「衡陽」、フチ級補給艦「微山湖」は、3月9日ズンダ海峡を通過し、約1か月に渡る豪周回した遠海訓練を終了し、南シナ海に入った。

この間、豪・NZ間の国際水域で演習直前に周囲の航空機などに対し無線のみで通告した実弾演習を実施し、豪・NZの国防相から、中国からの通告は多くの国が慣例とする12～24時間前の通告が望ましいとの指摘がなされた。



（資料源：豪国防省発表資料³を基に筆者が作成）

【コメント】

豪を周回する中国海軍の遠海訓練が公表されたのは初確認。

先月、豪国防省は「2月11日に南シナ海国際海域で定期的なパトロールを行っていた豪空軍 P-8A 哨戒機の至近距離で、中国軍の J-16 戦闘機が『照明弾』を投下」と発表しており、これに対し中国は「豪は南シナ海で故意に中国の主権を侵害し挑発」と強く反発した。

中国は南シナ海で米軍などとともに、「航行の自由作戦」に参加する豪を強く牽制しており、今回の周回訓練もその一環の可能性がある。

(4) 着上陸装備

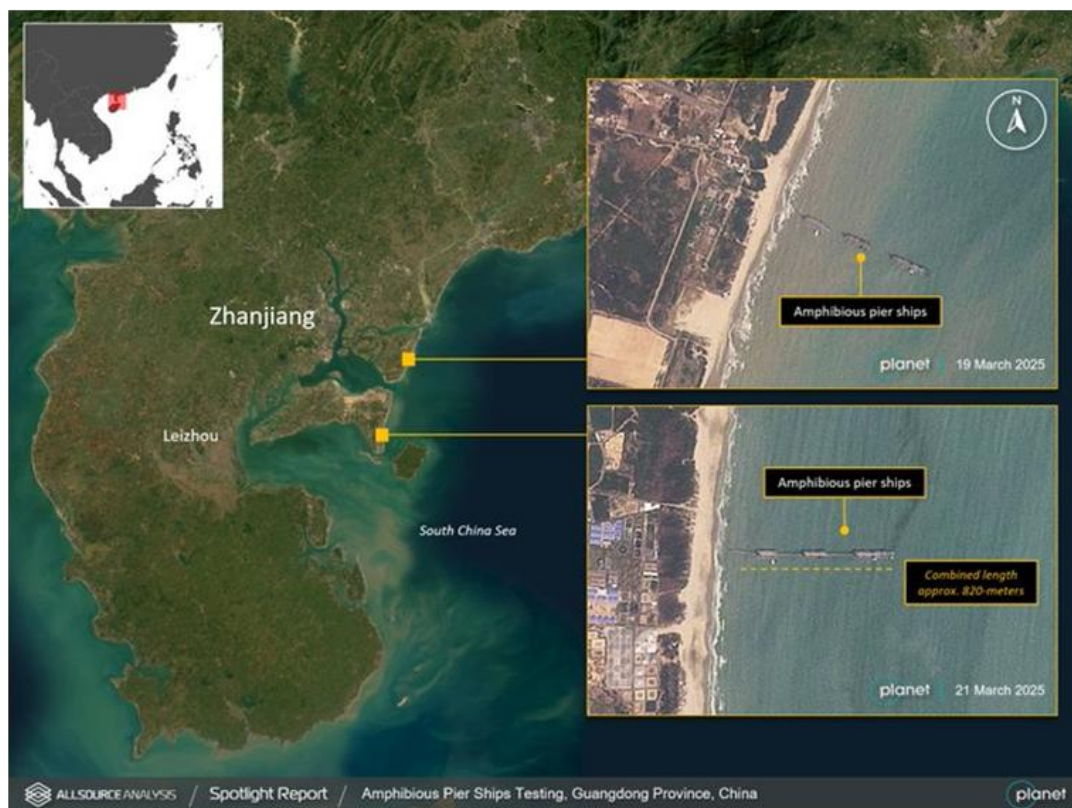
3月13日以降、中国で建造されていた栈橋船3隻が広東省の海岸で接岸している状況がSNSに投稿された。更に、3月19及び21日に広東省海岸の別の場所で栈橋船が接岸している衛星画像が投稿された。

SNSに投稿された栈橋船3隻



(出典：The war zone 20250313)

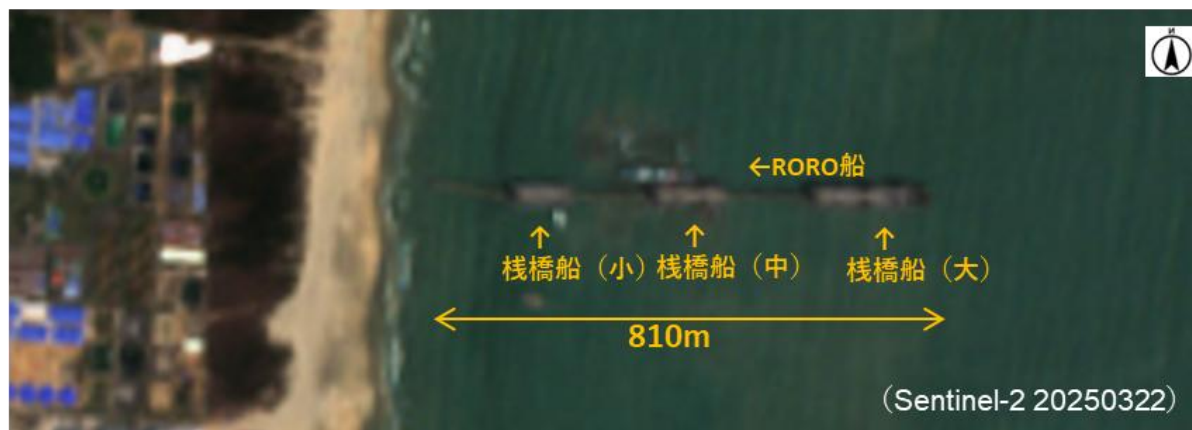
X「AllSource Analysis」に投稿された栈橋船の接岸状況



(出典：AllSource Analysis 20250325)

また、22 日には 21 日の同じ場所で接岸している衛星画像が確認された。

広東省海岸で確認された栈橋船3隻の衛星画像



(資料源：EO Browser)

22 日の画像では栈橋の隣に RORO 船が確認された。

AIS では、これまでに軍の上陸訓練に参加したことがある民間船舶の「長樂公主」が 3 月 22～27 日まで、「順龍海」が 3 月 22～27 日まで確認された。

長樂公主の航跡



(資料源：Marinetrafficに追記)

長樂公主 (14000 t)



(出典：百度图片)

順龍海の航跡



(資料源：Marinetrafficに追記)

順龍海 (25000 t)



(出典：中远海运客运有限公司)

27 日、国防部定例記者会見で同栈橋船について質問された報道官は「武器装備に関する質問については発表すべき情報はない」と回答した⁴。

【コメント】

中国軍は揚陸艦の不足を民間 RORO 船で補おうとしており、近年民間船との訓練を活発化させている。これまで確認されていた民間船との訓練では、下記の映像のように門橋部を接続させた簡易栈橋を使用していたが、今回のような栈橋船が確認されたのは初。また、民間船 2 隻も接岸地域で確認されており、この 2 隻が栈橋船との接続を試験した可能性がある。

簡易栈橋より短時間で接続・接岸できるため、迅速な陸上部隊の揚陸が可能になり、着上陸能力の強化となる。台湾侵攻時のネックであった輸送能力を着実に向上させている。

簡易栈橋と接続する RORO 船



(出典：聯勤保障部隊2023年徴兵宣伝ビデオ「選択」)

(5) 海警総隊

○ 海警部隊の訓練

3月9日の報道によると、3月上旬までに海警直属第2・5支隊及び江蘇・浙江海警局が海上総合法執行能力を向上させるため、訓練を強化した⁵。

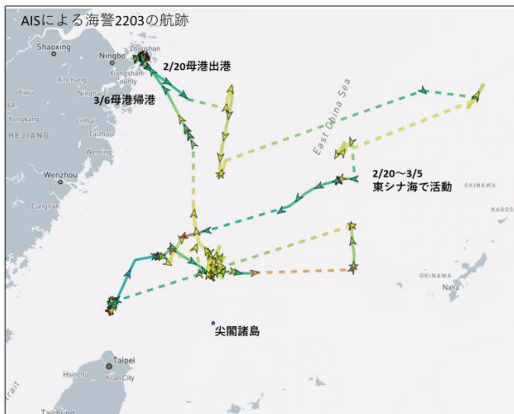
3月19日の報道によると、海警北海海区が12日から5日間の総合法執行演習を実施した⁶。

3月25日の報道によると、海警直属第2支隊が、東シナ海で5日間に渡り高強度専門訓練を実施した⁷。それぞれの訓練の状況は以下の通り。

海警直属第2支隊の訓練（～3月上旬）①

報道概要

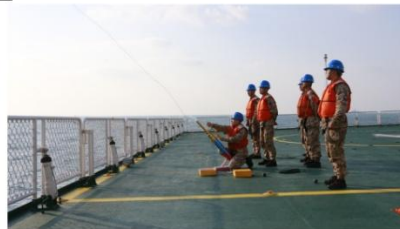
- 直属第2支隊が編隊航行・救助・突発事象対処等の訓練を3月上旬までに実施
- 新たな理念・思考・方法で新年度の法執行訓練を開始



- AISから訓練参加した編隊は海警2203・2304（尖閣接続水域で既確認）
- 2月に尖閣巡航を担当していた第2支隊海警船4隻が3/3に交代して玉環島に帰港していることから、2304と同日に調整等行った可能性

海警直属第2支隊の訓練（～3月上旬）②

訓練の状況（出典：上2枚・下左1枚 央視新聞20250309）



参考：魚釣島

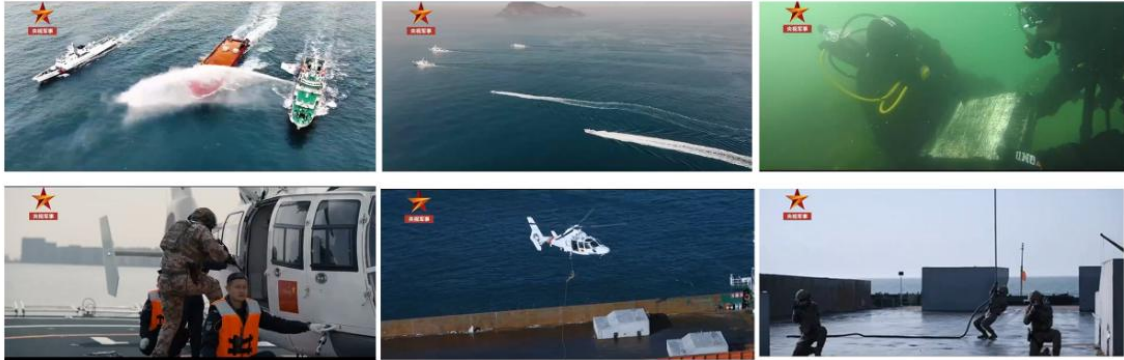


- 島嶼周辺海域においてボートを航行させており、尖閣諸島に類似した地形において、ボート使用を想定した訓練を実施している可能性
- 2025年からは「新たな思考・方法」で訓練と表明しており、尖閣周辺海域を航行する海警編隊が、これまでにない方法で緊張を高める可能性

海警北海海区の訓練 3/12～16

報道概要

- 3月12日から5日間、海警北海海区の法執行艦3隻、法執行艇5隻及びヘリコプター2機が黄海で法執行演習を実施。民間商船及びボート各1隻も参加し、海空協同の模擬対抗訓練も実施
- 隊員の携帯する新型端末では30カ以内の全動態が掌握可能で、霧等悪天候でも活動が可能



(出典：全て微博 央视军事20250328)

- 確認された6000番台の艦番号から直属第6支隊が実施
- 映像では、執銃した海警隊員がヘリからリペリングにより対象船舶に着艦、潜水による物資の回収等の状況が確認され、軍の特殊部隊と類似の訓練を実施している可能性

海警直属第2支隊の訓練 3月下旬

報道概要

- 海警直属第2支隊が、東シナ海で5日間に渡り高強度専門訓練を実施。編隊隊形変換・落水人員救助・補給訓練等を実施
- 目標海域の海象気象と任務の特性を踏まえ、新装備の性能と応急対処能力を検証

訓練の報道映像 上左：編隊航行、上右：人員救助、下左右共：縦曳き給油



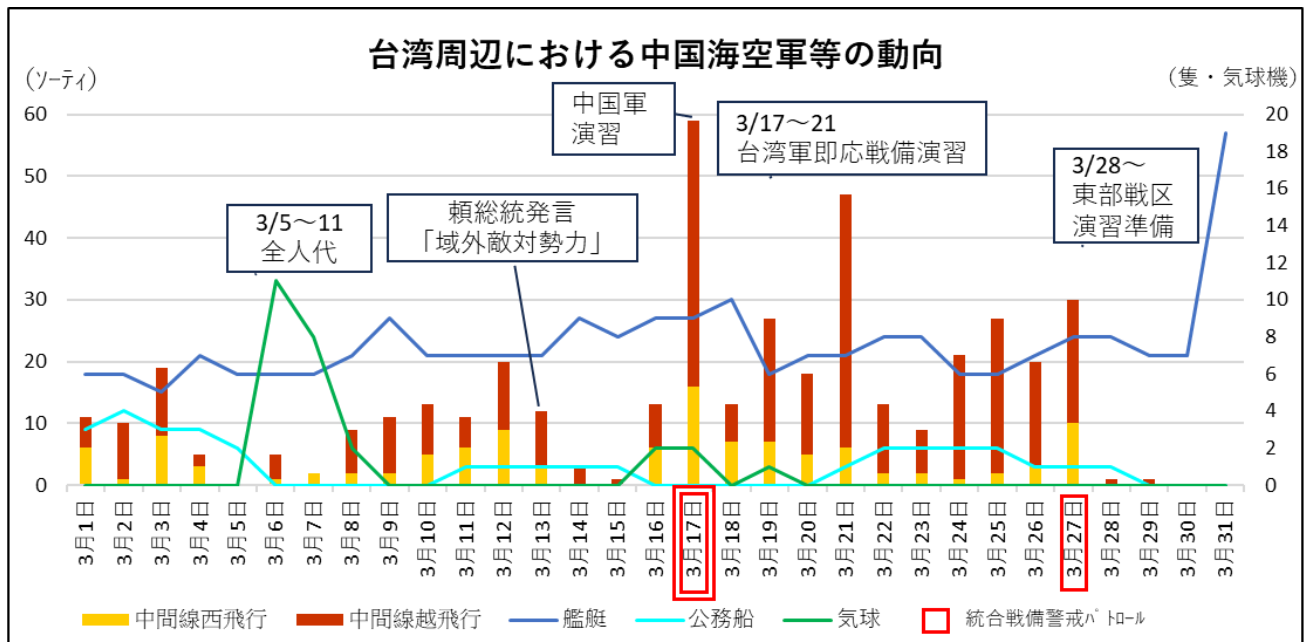
(出典：全て微博 央视军事20250325)

- 参加海警船は2901、2303、2304、2307（2901以外は尖閣接続水域で既確認）
- AISから、訓練は舟山沖で3/16～20頃実施された可能性
- 1万t級2901からの補給により、無帰港で封鎖・パトロール等任務継続長期化が可能

3 対台湾動向

(1) 台湾周辺での軍の活動状況

○ 中華民国国防部発表による台湾周辺での中国海空軍の動向



(資料源：中華民国国防部 HP を基に作成)

3月是中国軍機延べソーター431（内、中間線超えが延べ316）、中国艦艇延べ235隻、公務船延べ32隻、気球延べ26機が確認。一か月及び1日当たりの気球確認数は統計開始以来最大であった。

1日における軍用機最大確認数は59ソーター、最大中間線超え43ソーター、統合戦備警戒パトロールは17日に2回及び27日の計3回であった。

中国は3月17日のCCTV「軍事報道」で「中国軍は17日に台湾海峡付近で軍事演習を実施した」と報道した。また、国防部報道官は27日の記者会見で「東部戦区は台湾周辺の海空域で海空兵力をもって戦備警戒パトロールと統合演習を実施した」と述べた⁸。

【コメント】

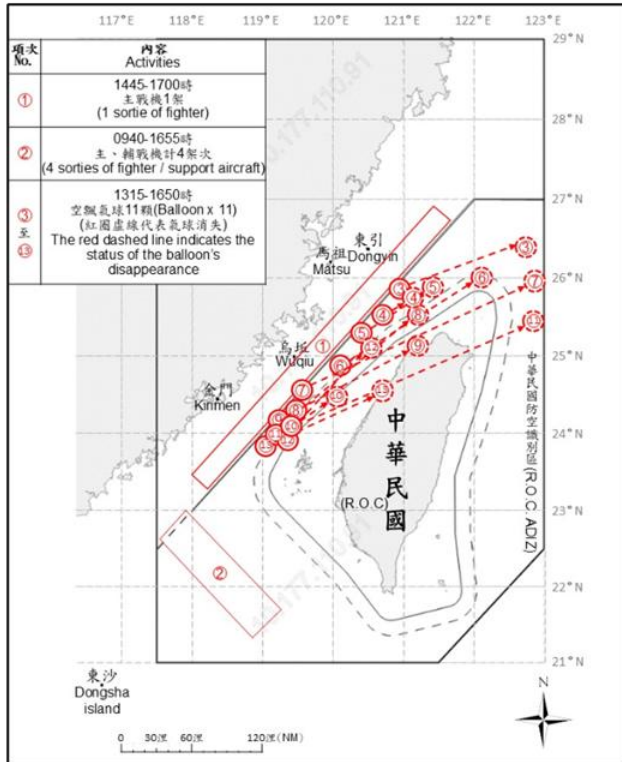
3月は5日から開催された全人代に全国から軍高官が北京に集まるため、例年通りその間の軍の活動は低調だったものの、気球の活動が活発であり6日に11機、7日に8機確認され、次頁図のように台湾本島上空も通過した。軍用機の代替として気球を利用し台湾防空網の疲弊を企図している可能性もある。

17日は、統合戦備警戒パトロールを2回実施した。同パトロールが1日2回確認されるのは初であり、中国は同日、台湾海峡付近で軍事演習を実施したと公表した。この演習は台湾の頼總統が13日の記者会見で中国を「域外敵対勢力」と名指ししたこと及び台湾軍が17日から開始した即応戦備演習へ対抗したものと考えられるが、全人代直後の対応で準備期間も短かったため、2回のパトロールを利用して軍事演習と称している可能性がある。

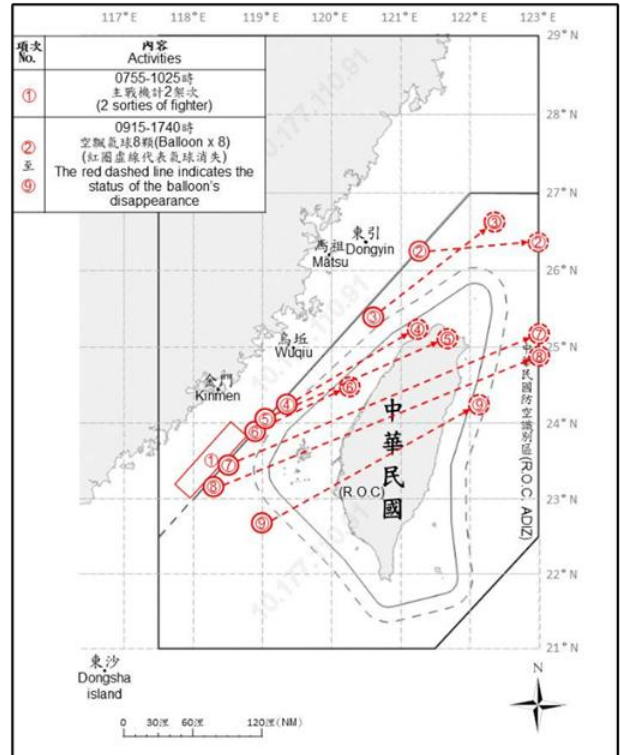
また、28日以降は東部戦区が4月1日から開始する台湾周辺での統合演習準備の為、軍用機の飛行はほぼ確認されず、また31日は統合演習参加の艦艇19隻が台湾周辺海域に事前展開した。

なお、「統合戦備警戒パトロール」(原文：聯合戰備警巡)は先月までは「協同戦備パトロール」と訳していたが、27日の中国国防部記者会見の発言に鑑み、訳文を変更した。

3/6の気球の航跡 (③～⑬)



3/7の気球の航跡 (②～⑨)



(出典：中華民国国防部HP)

(2) 金門周辺海域での動向

○ 海警船の制限水域入域

13 日 1450～1700、中国海警 4 隻が金門制限水域に入域⁹。

20 日 1450～1700、中国海警 4 隻が金門制限水域に入域。同海警船 4 隻が翌 21 日 0845～1100、再び金門制限水域に入域¹⁰。

台湾海巡署によると 3 月の台湾制限水域への入域は 3 回で、金門制限水域への入域は通算 63 回となった。

金門制限水域内の中国海警船と台湾巡視船



(出典：海洋委員会海巡署20250321)

○ 科学調査船の活動

3 月 12 日 1301～1552、中国の科学調査船「延平 2 号」が金門制限水域に入域。15 時に観測器材を水中に投下、観測作業を実施しようとした。海巡署巡視艇が直ちに器材を回収するよう要求すると、同船は器材を回収した¹¹。

「延平2号」 (赤丸内が投下した器材)



(出典：海洋委員会海巡署20250313)

(3) 東沙周辺海域での動向

3月18日、台湾海巡署は東沙周辺における中国漁船・海警の動向について以下のように発表¹²。
「先月頃から多数の中国漁船が東沙海域においてボートを下ろし、環礁内で違法操業を行っていることに対し、台湾海巡署は2月26日、東沙海域取締り特別チームを編成、巡視船・巡視艇計6隻を派遣し、越境した中国のボート5艘を拘束、3月11日には別のボート1艘を拘束した。

この際中国海警船は取り締まりを妨害しようとしたが、台湾側はこれを阻止し退去させた。

3月12日1440、東沙海域の監視任務についていた巡視船が東沙南西20.5カ所で中国漁船3隻が制限水域に入域しているのを確認。東沙に配備していた別の巡視船と共に退去を要求。この間、1515に海警3101が東沙南西21.7カ所まで航行し、台湾側が退去させている中国漁船（海警に協力して停船）に乗り込み臨検を行った。台湾側は全船舶に退去を要求。1522に海警が乗船した漁船と海警船は離脱した。16時に海警船を制限水域外に、1650に中国漁船3隻を東沙南西27.8カ所まで退去させた。

これ以降、中国漁船は未確認であるが、海警船が東沙制限水域周辺で嫌がらせを続け、16日13時には制限水域に入域した海警3304を退去させた。

【コメント】

中国が台湾離島において威圧的な行動を活発化させている。

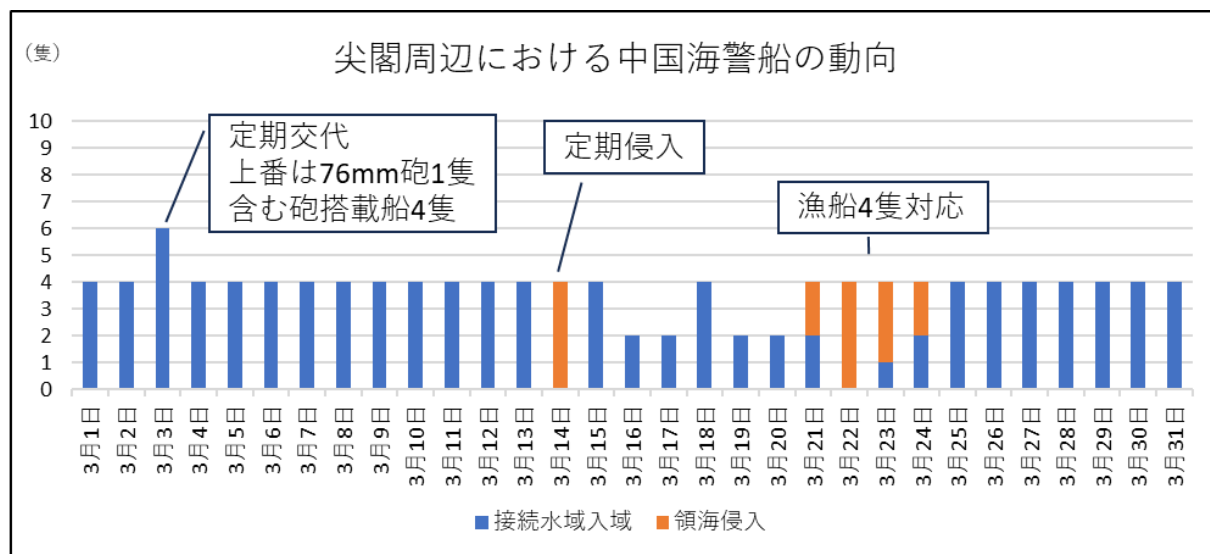
金門周辺海域では、中国海警によるパトロールは月に複数回、4隻で4方向から進入し2時間航行、というパターンが継続しているが、3月は2日連続の進入となった。また、科学調査船の活動も確認される等、金門周辺での海警の活動常態化に加え、科学調査船による活動も加わった。

東沙海域においては、中国漁船と海警が協力した活動が確認された。中国漁船を他国等が実効支配している海域で操業させ、その漁船に対し中国海警が法執行活動を行い、実効支配を既成事実化しようとする試みは南シナ海でも見られている。これまで東沙周辺海域での海警の活動はあまり報道されていなかったが、金門・馬祖等中国対岸の離島のみならず、東沙海域での海警の活動常態化を目指した活動を開始した可能性もある。

4 対日動向

(1) 尖閣諸島周辺での活動状況

○ 海上保安庁発表等による尖閣周辺における中国海警船の動向



(資料源：海上保安庁 HP、八重山日報を基に筆者が作成)

3月も砲搭載船4隻による活動を実施した。

報道では21日0155ごろ、尖閣諸島の南小島沖合で、中国海警局に所属する2隻が日本の漁船の動きに合わせるように領海内へ侵入。一時4隻が侵入したが、23日2000以降は再び2隻となり、24日2205頃、領海外へ退去したのを確認した。領海内への滞在時間は92時間8分で過去最長であった。(これまでの最長は2023年3月30日から4月2日の80時間36分)

これに対し、中国海警局は24日、「21～24日、日本の“理恵丸”“第八琴海丸”“第八泰生丸”“善幸丸2”が我が釣魚島(注：原文ママ)領海に侵入し、中国海警が法にのっとり必要な管制措置を採り警告駆逐した」と発表¹³。

中国のAISサットで確認された領海侵入時の位置(3月24日11:30頃)



(出典：weibo海洋装备与公务船资讯に筆者が追記)

【コメント】

3月には日本漁船の日本領海内での操業に対応した領海侵入が、最大4隻、過去最長の92時間超確認された。

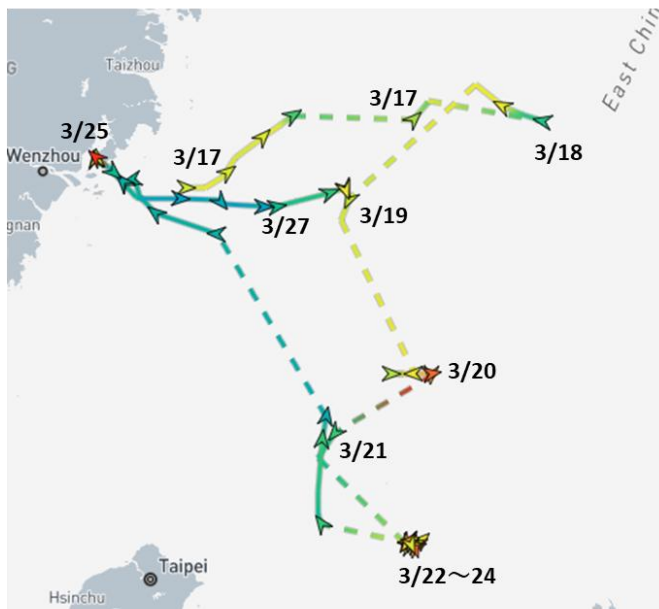
中国は、日本漁船が自国の領海内で操業しているとの見解を有しているため、日本漁船が操業する限り対応して領海侵入する方針を維持しており、過去最長は中国側が意図して記録したものではなく、日本漁船に対応した結果と認識していると思われる。

更に、中国のSNSでは、3月21～23日の王毅外相の4年半ぶりの訪日時に合わせて日本漁船が「中国の領海に侵入」し挑発したとの論調も見受けられ、日本への責任転嫁を図っている。

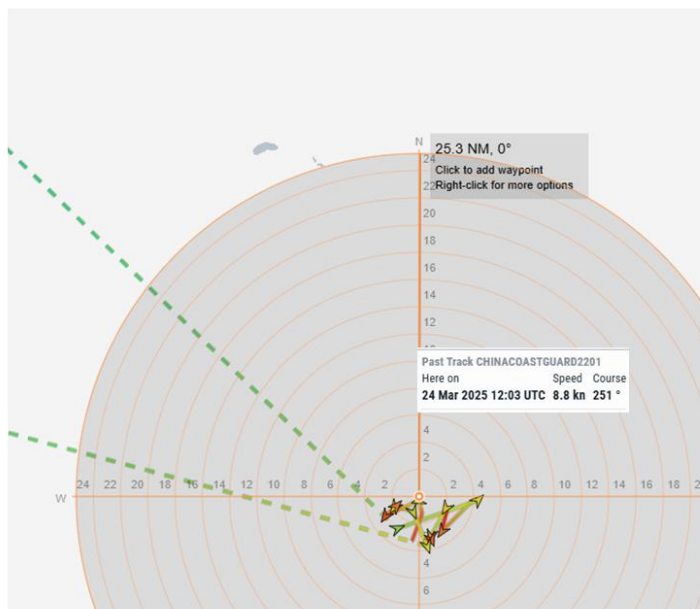
○ 尖閣接続水域隣接海域での海警船の活動

3月22～24日に尖閣接続水域外側海域において、AISで海警船4隻（2201, 2302, 2303, 2304）の活動が確認された。地図上での測定となるが、4隻は尖閣諸島から25～28カイリ（接続水域は24カイリ）の位置まで接近した。

海警2201の航跡



海警2201と南小島までの距離

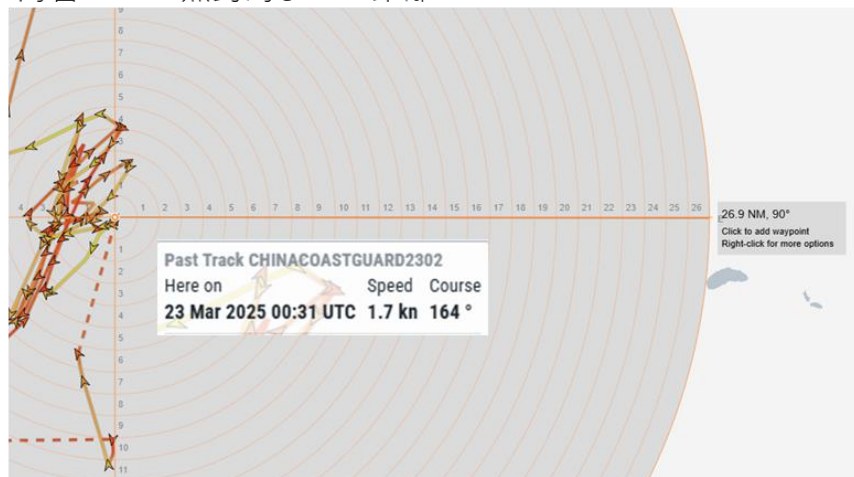


（資料源：Marine traffic）

海警2302の航跡

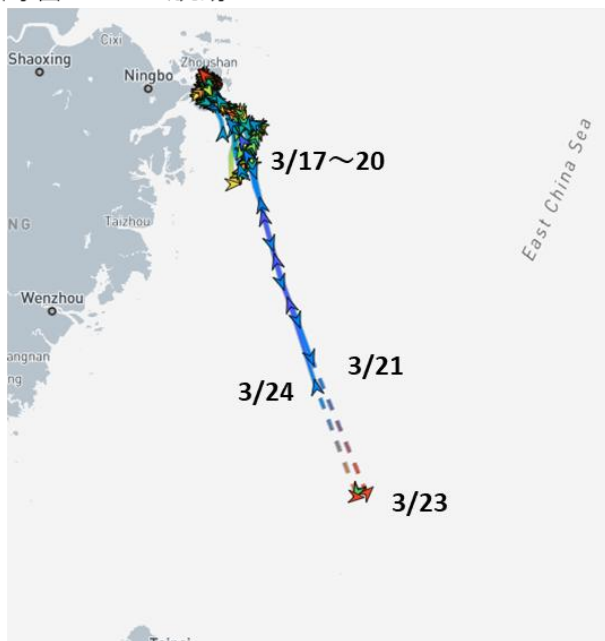


海警2302と魚釣島までの距離

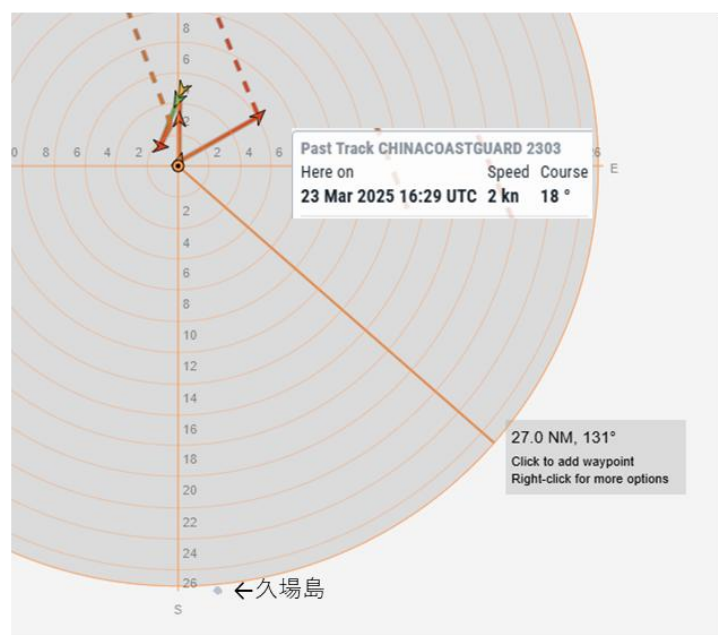


（資料源：Marine traffic）

海警2303の航跡

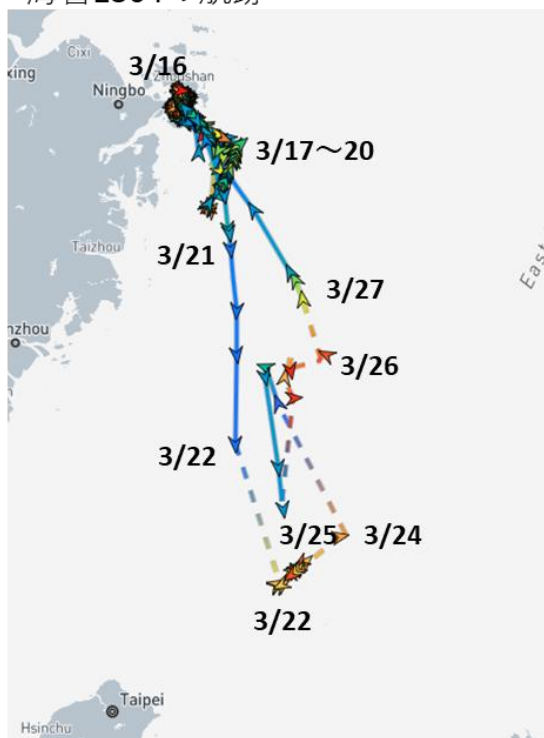


海警2303と久場島までの距離

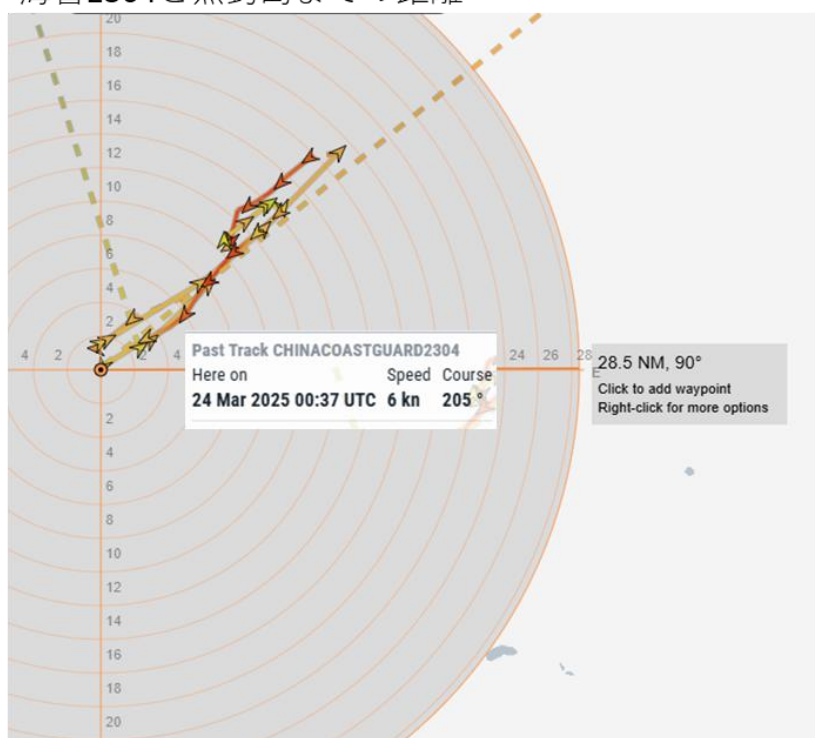


(資料源：Marine traffic)

海警2304の航跡

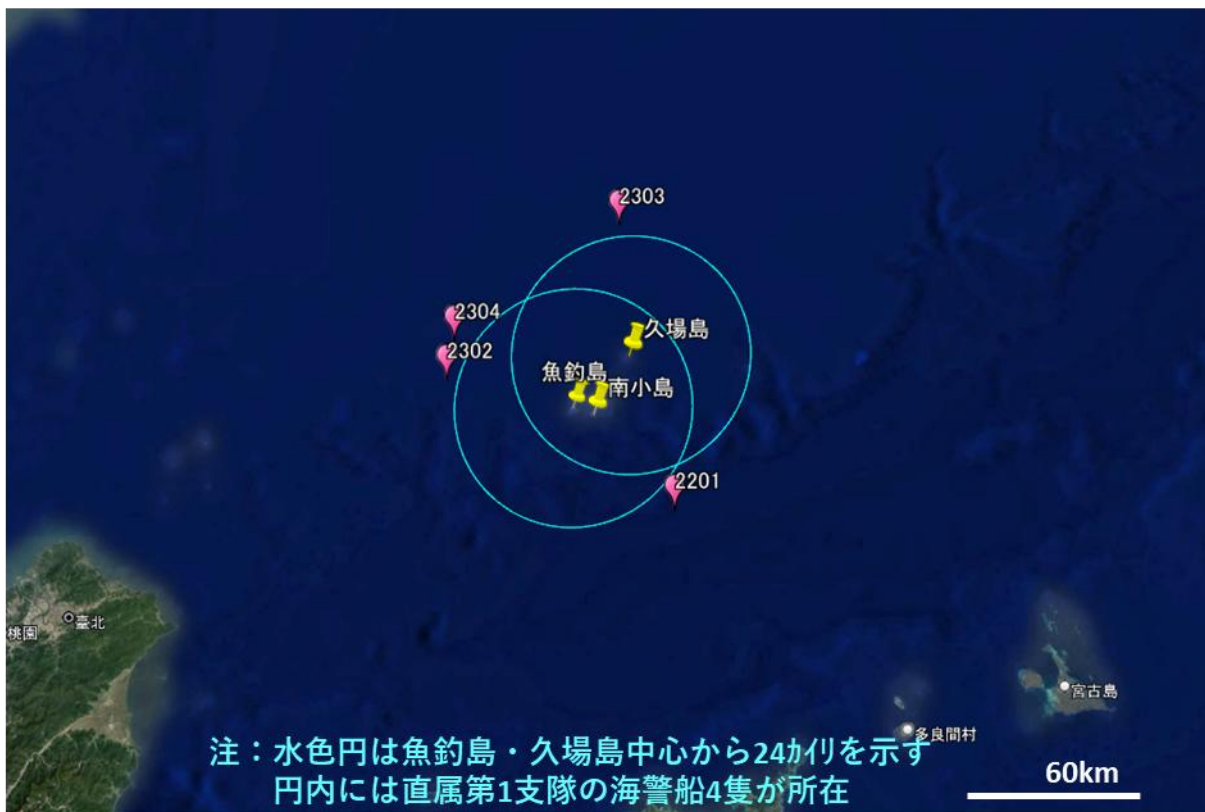


海警2304と魚釣島までの距離



(資料源：Marine traffic)

3/23～24 最接近時の海警船の位置



【コメント】

接続水域には進入しなかったものの、その外側 1～4 カイリの位置で、22～24 日にかけて 3 月に尖閣巡航編隊であった直属第 1 支隊の 4 隻を直属第 2 支隊の 4 隻が増援できる形で航行した。

AIS の航跡から、海警 2303・2304 は 20 日頃までに実施した 5 日間の高強度専門訓練後に、2201 は東シナ海パトロール任務に引き続き、2302 は台湾海峡パトロール任務間に尖閣周辺に進出したと見られる。

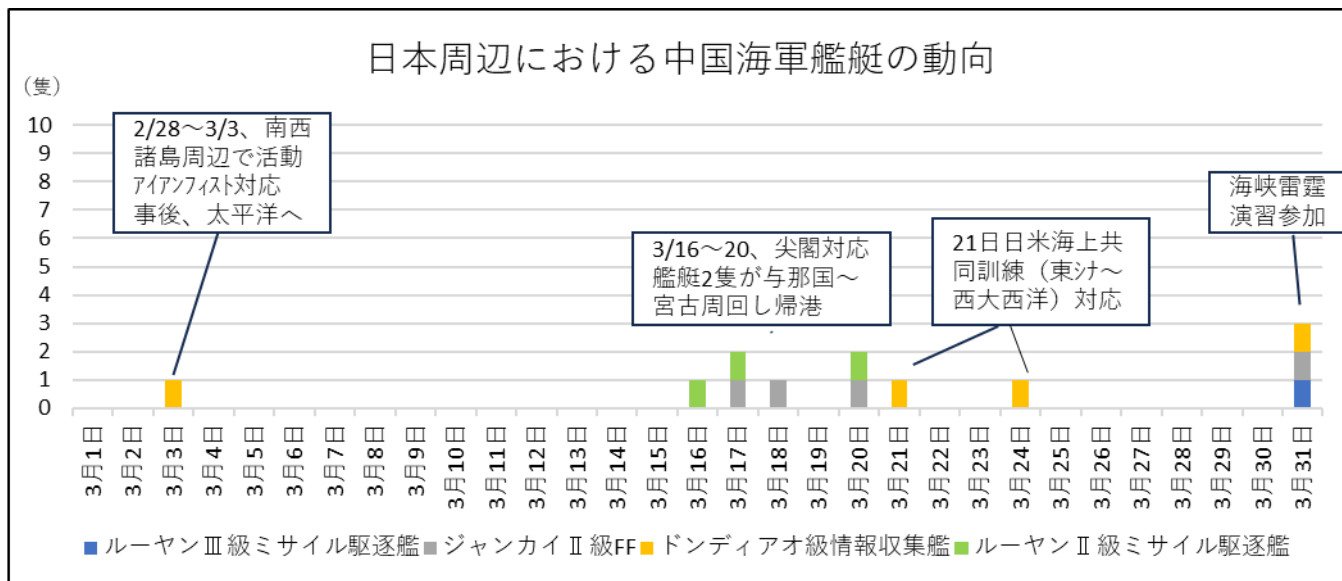
21～24 日に日本漁船 4 隻が尖閣の日本領海内で操業を行ったため、この操業が長期化または漁船及び海保巡視船の隻数が増加する等した場合に、3 月の尖閣巡航担当直属第 1 支隊を増援して海警船 8 隻で対応できるよう、予め尖閣接続水域外側に配備をしていた可能性がある。

東海海区直属第 1・2 支隊は東シナ海日中中間線、尖閣諸島、台湾海峡におけるパトロール任務を有しているが、状況に応じて迅速に尖閣周辺に集結できるよう運用されていることを示したと言える。

また、「2 各軍等 (4) 海警総隊」の項で述べたように、1 万トン級海警船 2901 も含めた編隊訓練を強化しており、東海海区が新たな手段で日本・台湾への対応を更に強硬化させる可能性もある。

(2) 日本周辺での軍の活動状況

○ 防衛省統合幕僚監部発表による日本周辺における中国海軍の動向



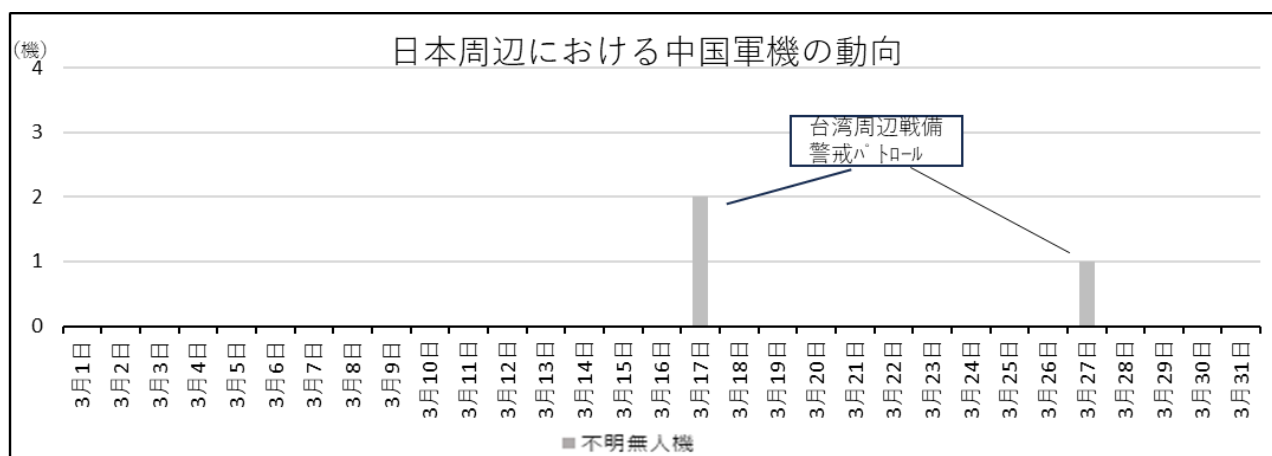
(資料源：防衛省統合幕僚監部 HP を基に筆者が作成)

延べ 12 隻の活動が確認された。

トンディアオ級情報収集艦は、日米共同訓練時期に訓練海域周辺に進出していることから、台湾有事の際の日米両軍協力を念頭に情報収集している可能性がある。

16～20 日にかけて、尖閣対応をしていた可能性のあるルーヤンⅡ及びジャンカイⅡそれぞれ各 1 隻が尖閣西方から南下し、与那国島・台湾間をぬけ、沖縄・宮古島間を東シナ海方向へと北上した。17 日に台湾周辺で実施した戦備警戒パトロールと統合演習に連携し、日本周辺海域で活動した可能性もある。

○ 防衛省統合幕僚監部発表による日本周辺における中国軍機の動向



(資料源：防衛省統合幕僚監部 HP を基に筆者が作成)

延べ 3 機の活動が確認された。

いずれも、台湾周辺での戦備警戒パトロールで台湾本島を周回した無人機であった。

(3) 対日認知戦（解放軍報、国防部の発表からの抜粋のみ）

- 防衛省が射程 3000km の新型弾道ミサイル（注：原文ママ）の研究を初公開したことについて ¹⁴
国防部定例記者会見 20250314

今年は中国人民抗日戦争・世界反ファシスト戦争勝利 80 周年であり、日本が厳正にこの歴史の教訓を汲み取り、軍事安全保障分野で言動を慎み、地域の平和と安定を利するよう、実際の行動をもってアジアの隣国と国際社会の信頼を得るよう要求する。

- 海自艦艇の 2 月の台湾海峡通過と日本周辺での中国軍活動が活発化との指摘について ¹⁴
国防部定例記者会見 20250314

中国は各国の国際法に準拠した航行の権利を尊重するものの、いかなる国家も台湾海峡に波風を立て、中国の主権を侵害し、台湾独立分離勢力に間違った信号を送ることに断固として反対する。

中国軍の関連海空域での活動は国際法と慣習に一致しており、正当で非難する余地はない。日本がいわれなく中国の正常な訓練活動を非難するのに断固として反対する。

- 統合作戦司令部設立 ¹⁵ 解放軍報 20250320

日本は近年「外部の脅威」を喧伝し、攻撃的武器による反撃能力を構築しようとしており、統合作戦司令部の設立は日米の軍事協力を深化させ、地域情勢を不安定化させる。

- 日本の「戦える国」への邁進に警戒 ¹⁶ 軍事科学院 解放軍報 20250326

防衛省が統合作戦司令部を正式に発足させ、更に米軍との協力を強化した。日本は自衛隊を主動的な攻撃能力を有する「正常な軍隊」にする企みを有している。歴史上、日本は侵略戦争を発動した加害国であり、国際社会は警戒すべきである。

- 日本の中国国防費への言及や統合作戦司令部発足等の動向について ¹⁷
国防部定例記者会見 20250327

日本は第 2 次大戦時に侵略戦争を発動した国家であり、他国の国防費にとやかく言う資格は最もない。今年は抗日戦争・反ファシスト戦争勝利 80 周年であり、日本が歴史を鑑とし安全保障分野で言動を慎むよう望む。

【コメント】

日本の統合作戦司令部設立を日米同盟強化に繋がるとして強く警戒。

また、中国外交部と同様にひたすらに「抗日戦争・反ファシスト戦争勝利 80 周年」のナラティブを繰り返し、論理ではなく歴史による日本への非難を展開した。

5 南シナ海動向

○ 南シナ海海域定期パトロール

3月29日、南部戦区が「南シナ海海域の定期パトロールを28日に実施。比が頻繁に域外国を引き込み所謂『共同パトロール』を何度も行い、不法な主張を拡散し、南シナ海に不安定要素を作り出し、地域の平和と安定を破壊しようとしている。」と発表¹⁸。

○ セカンドトーマス礁

3月5日、海警局報道官が「3月4日、中国の許可を経て、比の民間船1隻がセカンドトーマス礁の不法座礁艦艇に生活物資を補給、中国海警は比船舶に確認し全行程を監視・管理した」と発表¹⁹。

【コメント】

南シナ海での対比強硬姿勢は継続。

3月28日、ヘグセス米国防長官が比を訪問し、マルコス比大統領、テオドロ比国防相と会談、両国の相互防衛協定に対する揺るぎない関与を確認するとともに中国の脅威を踏まえ、南シナ海に抑止力が必要との認識も示した。

また同日、日米比3か国共同訓練が南シナ海で実施され、海上自衛隊から護衛艦「のしろ」、米海軍からミサイル駆逐艦「シャウプ」、P-8A、比海軍からフリゲート艦「ホセ・リサール」、C-90が参加した。

中国はこれを「比が頻繁に域外国を引き込み」と非難し、同日に定期パトロールを行う等、比と日米等との連携を強く警戒している。

6 軍事交流

(1) 共同訓練

○ 中・イラン・露海上共同演習「安全の紐帯」

3月9～13日、中・イラン・露海上共同演習「安全の紐帯」が、イランのチャーバハール港沖で実施。「安全の紐帯」は2019年から開始され、今回で5回目。

中国はアデン湾派遣第47次隊の駆逐艦「包頭」と総合補給艦「高郵湖」が参加。

集結準備・海上演習・港湾総括の3段階で実施。海上演習は10～11日で、海上目標打撃、臨検、ダメージコントロール、救難等の科目を演練²⁰。

イランからは2隻の駆逐艦を含む10隻、露からは2隻の護衛艦等が参加、更に南アフリカ・パキスタン・オマーン等がオブザーバーを派遣した²¹。

訓練に参加した包頭艦



訓練開始式



(出典：左右共中国軍号20250310)

○ 中・タイ海上共同訓練「藍色突撃-2025」

3月26日～4月2日、中・タイ海上共同訓練「藍色突撃-2025」が、広東省湛江沖で実施。「藍色突撃」シリーズ演習としては6回目。

両国合わせて艦艇11隻、海軍陸戦隊2コ支隊（1コ支隊約100名）が参加。海上打撃・ミサイル防空・海上搜索・対テロ対海賊等の科目を演練²²。

(2) 軍事交流

○ 空軍「八一飛行表演隊」のタイでのアクロバット飛行

空軍「八一飛行表演隊」は3月2～10日、中タイ国交樹立50周年とタイ空軍創設88周年を記念し、タイでアクロバット飛行を行った。部隊は中国北部の飛行場からバンコクまでY-20空中空輸機の給油により直行した²³。

【参考文献】

- 1 国防網 20250309
<http://www.mod.gov.cn/gfbw/qwfb/16373817.html>
- 2 人民海軍 20250315
<https://mp.weixin.qq.com/s/nDg1OuVHoQGHtOjono8Xiw>
- 3 豪国防省 20250309
<https://www.defence.gov.au/news-events/news/2025-03-09/peoples-liberation-army-navy-vessels-operating-near-australia>
- 4 国防部網 20250327
http://www.mod.gov.cn/gfbw/sy/tt_214026/16377297.html
- 5 央視新聞 20250309
https://ysxw.cctv.cn/article.html?toc_style_id=feeds_default&item_id=9281041482475603415&channelId=1119
- 6 中国科技網 20250309
http://www.legaldaily.com.cn/army/content/2025-03/20/content_9153342.html
- 7 微博 央视军事 20250325
<https://m.weibo.cn/status/5148093822272696>
- 8 国防部網 20250327
http://www.mod.gov.cn/gfbw/sy/tt_214026/16377297.html
- 9 海洋委員會海巡署 20250313
<https://www.cga.gov.tw/GipOpen/wSite/ct?xItem=164595&ctNode=650&mp=999>
- 10 海洋委員會海巡署 20250321
<https://www.cga.gov.tw/GipOpen/wSite/ct?xItem=164634&ctNode=650&mp=999>
- 11 海洋委員會海巡署 20250313
<https://www.cga.gov.tw/GipOpen/wSite/ct?xItem=164593&ctNode=650&mp=999>
- 12 海洋委員會海巡署 20250318
<https://www.cga.gov.tw/GipOpen/wSite/ct?xItem=164616&ctNode=650&mp=999>
- 13 中国海警局 20250324
https://www.ccg.gov.cn/wqzf/202503/t20250324_2631.html
- 14 国防部網 20250314
<http://www.mod.gov.cn/gfbw/qwfb/16374922.html>
- 15 解放軍報 20250320
<https://rmt-static-publish.81.cn/file/20250320/4a35b15ffdac9c5707bb500a1191163e.pdf>
- 16 解放軍報 20250326
<https://rmt-static-publish.81.cn/file/20250326/606c0d1296bd337054ffe77ff84c714e.pdf>
- 17 国防部網 20250327
http://www.mod.gov.cn/gfbw/sy/tt_214026/16377297.html
- 18 微信·南部战区 20250329

https://mp.weixin.qq.com/s/VhzA2JYaeUatYH_LRoggoA

19 中国海警局 20250305

https://www.ccg.gov.cn/wqzf/202503/t20250305_2624.html

20 中国軍網 20250313

http://www.81.cn/yw_208727/16374617.html

21 中国軍号 20250310

<https://mp.weixin.qq.com/s/pTbN46Z6HiFxVXdDv9RODQ>

22 国防部網 20250326

http://www.mod.gov.cn/gfbw/sy/tt_214026/16377297.html

23 国防部網 20250314

<http://www.mod.gov.cn/gfbw/qwfb/16374922.html>

中国軍事動向月報 2025年3月

2025年4月11日発行

公益財団法人国家基本問題研究所
〒102-0093

東京都千代田区平河町2-6-1
平河町ビル5階

本書の無断転載、複写、複製を禁じます。